

一般研究集会（課題番号：30K-02）

集会名：平成 30 年度自然災害に関するオープンフォーラム「震災の伝承と防災の未来～被災地で向き合う「災害と教育」～

主催者名：日本自然災害学会，京都大学防災研究所，東北大学災害科学国際研究所，自然災害研究協議会東北地区部会

研究代表者：風間 基樹

所属機関名：東北大学大学院工学研究科土木工学専攻

所内担当者名：田中 茂信

開催日：平成 30 年 10 月 8 日

開催場所：宮城県仙台市仙台中小企業活性化センター

参加者数：180 名（所外 160 名，所内 20 名）

・大学院生の参加状況：20 名（修士 15 名，博士 5 名）（内数）

・大学院生の参加形態【聴講及び運営補助】

研究及び教育への波及効果について

東日本大震災の発生後，岩手県，宮城県，福島県の学校現場で実践や展開がなされている防災教育の現状と課題を共有し議論することにより，防災研究成果の普及や社会実装に向けた防災教育モデルの新しい研究課題を創造することができた。また，効果的で体系化された防災教育が現代的な諸課題として残されている状況理解から，学生を含む次世代の若手防災研究者に対して教育的インパクトも与えることができた。本フォーラムの成果としての今後の防災教育の方向性については，国内外への波及効果も期待できる。

研究集会報告

(1) 目的

東日本大震災で被災した東北各地方では，被災体験をもった子どもに加えて，その経験や記憶のない新しい世代の子どもにも向き合い，現在も進行している復興の過程や未来に焦点を当てるなど，教育の新たな局面を迎えている。本フォーラムは，東北各地から災害・防災に関する教育の第一線で活動している実務者や，その支援を行う研究者を招き，知恵や課題を共有し，今後の防災教育の方向性について考える。

(2) 成果のまとめ

岩手県，宮城県，福島県の学校現場における放射線教育を含む復興教育・防災教育の現状と課題について，また，学校現場が抱える教育的課題を支援している地域住民，大学研究者，NPO の立場からの実践報告，さらにはパネルディスカッションの総合討論を通して，全国から集まった自然災害／防災の研究者や実務者らと知恵や課題を広く共有し，今後の防災教育の方向性について考えることができた。

加えて，フォーラムでは，被災地の中学生，高校生が学習・研究している内容・成果につてもポスター発表が行われ，学習している子どもたちの震災復興や防災に対する思いを含めて，フォーラム参観者との交流と情報発信を行うことができた。

(3) プログラム

9：15～ 中高生による防災学習・研究発表

10：30～ パネルディスカッション

〔登壇者〕

佐藤 公治（宮城県南三陸町立歌津小学校・主幹教諭）

吉川 武彦（福島県相馬飯舘村立草野・飯樋・白石小学校長／

福島県相馬郡飯舘村まていの里のこども園長）

森本 晋也（岩手大学大学院教育学研究科／地域防災研究センター・准教授）

大内 幸子（仙台市地域防災リーダー）

伊勢みゆき（NPO 法人まなびのたねネットワーク・代表理事）

桜井 愛子（東洋英和女学院大学・准教授）

【コーディネーター】

佐藤 健（東北大学災害科学国際研究所・教授）

13:00～18:00 エクスカーション 震災遺構 仙台市荒浜小学校，名取市閑上地区，千年希望の丘見学

(4) 研究成果の公表

自然災害学会の学会誌「自然災害科学」において，特集（報告）と別冊として本研究成果を公表する予定である．